

再非行防止ボランティア活動におけるボランティア参加者とケースワーカーの関わり  
ー ボランティア参加者の抱える困難さとその解決プロセスを中心にして ー

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
臨床心理学領域  
安田 結

本研究は、非行少年を対象とした再非行防止ボランティア活動を行っている X 県少年サポートセンターにおいて、ボランティア参加者とケースワーカーの関わりを明らかにすることを目的として行った。その際、ボランティア参加者の抱える困難さと、その困難さがケースワーカーとの関わりの中でどのように解決されていくのかということに着目した。

X 県少年サポートセンターに所属するボランティア参加者 3 名およびケースワーカー 2 名を対象に半構造化インタビューを行い、その内ケースワーカー 1 名を除いた、ボランティア 3 名およびケースワーカーの計 4 名に対して分析を行った。

その結果、ボランティア参加者の困難さとして、『少年との関わりの中での困難さ』、『ボランティアとしての自分についての困難さ』、『ボランティア活動自体についての困難さ』がみられた。3 名に共通する困難さは『少年との関わりの中での困難さ』であった。これらの困難さへの対処や、対処によって得られる支援、相談後の変化はボランティア参加者によって異なっていることが明らかになった。

さらに、この困難さや解決プロセスについて、ボランティア参加者とケースワーカーとの関わりにおいて考察を行った。